

Members

東京合唱協会

- 音楽監督・常任指揮者 内藤 彰
- 指揮者 家田厚志、遠藤浩史
- コンサートマスター 内藤裕史
- ピアニスト 清水良枝、松村結子、松本康子
- インスペクター 鈴木光子
- マネージャー 田村真壽美
- 事務局 渡辺晶子、上澤あい子

■ソプラノ

今村 由美子
菊地 美奈
栗田 真希子
菅 まろ美
鈴 木 由美子
只野 裕美子
堀井 誠子
百合 道子
六角 玲子
工藤 志州
高橋 由樹

■アルト

石田 幸子
江副 淳子
鈴木 光子
高木 朋子
田村 真壽美
林 里花
平井 淳子
山川 一江
尾中 真由美

■テノール

栗飯原 俊文
池本 和憲
内藤 裕史
永澤 健夫
佐々木 紀多
永井 崇宏
松永 国和

■バス

荒木 誠
星野 淳
箕輪 健
若林 勉
熊谷 彦
鈴木 隆
東 浩
市

東京ニューシティ管弦楽団

- 音楽監督・常任指揮者 内藤 彰
- コンサートマスター 藤田めぐみ
- インスペクター 金岡秀典、山川奈緒子
- ライブラリアン 上村雅英
- アドミニストレイティブ・ディレクター 渡部中子
- 事務局 渡辺晶子、松原茂高、上澤あい子

■Violins

○藤田 めぐみ
○上原 まさみ
犬飼 素子
井上 直子
小澤 薫
小野 久美子
工藤 由紀子
小林 清美
佐藤 美佐子
鈴木 順子
高階 久美子
綱木 郁
徳井 えま
富山 ゆりえ
中村 朱見
春山 笙子
廣島 美香
古市 久留美
宮林 陽子
室井 美子

山川 洋子
山本 奈緒子
吉井 佳子
孝子

■Violas

○桜井 多美子
飯塚 三枝子
小西 応興
杉本 伸陽
鈴木 るか
竹鼻 江美子
古屋 孝則
松田 美奈子
光行 澄子
諸橋 恵子

■Violoncellos

○斎藤 章一
岡田 一樹
榎野 伸也
柴田 康尊
嶋田 拓夫

鈴木 和生
萬代 裕子
平沢 元

■Contrabasses

○江刺 豊
青木 賢一郎
飯田 啓典
江上 靖行
徳高 宏子
本間 園子

■Flutes

井ノ上 洋
内山 豊美

■Oboes

徳田 振作
佐々木 亜京美

■Clarinets

高橋 邦之
畑中 真理
佐藤 育子

■Fagotts

藤田 旬
齋藤 美和子

■Horns

小川 正毅
松浦 光男
月原 義行
上村 雅英

■Trumpets

元井 勤
古田 賢司

■Trombones

白濱 俊宏
林 哲也
榊原 徹

■Percussions

藤城 佳之
石澤 弘学
伊沼 能
平子 久江

■Harps

中山 かほ
平島 さより



第8回定期演奏会

東京ニューシティ管弦楽団

第13回定期演奏会

東京合唱協会



1996年9月8日(日) 午後2時開演 北とぴあ さくらホール

■主催 東京ニューシティ管弦楽団|東京合唱協会 ■共催 (財)北区文化振興財団

東京ニューシティ管弦楽団 第9回定期演奏会

1997年3月23日(日) 14:30~ 北とぴあ さくらホール 指揮:内藤 彰 曲目未定

Program

|||||

武満 徹

弦楽のためのレクイエム

ノヴェンバー・ステップス

〔琵琶・尺八・オーケストラのための〕

―― 休 憩 ――

ベルリオーズ

荘厳ミサ曲

曲目解説

|||||



武満 徹 (1930～96)



ベルリオーズ (1803～1869)

弦楽のためのレクイエム

作曲：1957年1～5月、東京交響楽団の委嘱。

初演：1957年6月20日、上田仁指揮東京交響楽団定期演奏会（日比谷公会堂）

今年2月20日に亡くなった武満徹若き日の大傑作。経緯は不明だが、ストラヴィンスキーがこの作品を耳にし、彼の才能を激賞した話是有名である。武満はほどなくTAKEMITSUとなり、世界の目と耳を集める存在となった。

武満は「題名はメディテーション（瞑想）でもよかった。私は特定の人の死を悼んで書いた訳ではない」と語る一方で、1955年10月に亡くなった作曲家・早坂文雄―武満の恩師、友人―に想いを寄せ、この曲を彼に捧げている。演奏時間約8分。

ノヴェンバー・ステップス＜琵琶、尺八、オーケストラのための＞

作曲：1967年4～8月、ニューヨーク・フィルの委嘱

初演：1967年11月、小澤征爾指揮ニューヨーク・フィルハーモニック創立125年記念祝賀コンサート（リンカーンセンター内フィルハーモニックホール）

2つのグループに分けられ、配置も決められた小編成のオーケストラと、琵琶、尺八が奏でる夢幻のひとつとき。あらためて述べるまでもなく、武満徹の代表作である。

題名は「11月の階段」の意。武満は「曲は区切りなく演奏される11の並列された段（ステップス）から成るが、それらの境界は相互に浸透しあい、曖昧である。

起源をもった語法と新しい音響形態が音空間を多層にする」（フィリップス、武満徹レクイエムのCDより引用）と語っている。演奏時間約20分。

荘厳ミサ曲 Messe solennelle

作曲：1824年。

1991年にベルギー北部のアントワープ（＝アントウェルペン）の聖カロルス・ボロメウス教会の楽譜コレクション棚くオルガン・ギャラリーで発見され、「今世紀最大の発見か」と旋風を巻き起こした作品。ベルリオーズの《荘厳ミサ曲》と確認されたのは翌92年のことである。

オーケストラから眩いばかりの色彩感を紡ぐベルリオーズが20歳の時に手がけた気宇壮大なミサ曲で、これは彼の最初期の大規模作品にあたる。曲の存在は彼自身の回想録のほか、初演、再演の記録などからも明らかだったが、譜面は他の初期作品同様、破棄されたと伝えられていた。

ベルリオーズは作曲の前年、1823年からパリ音楽院教授で標題音楽とミサ曲を専門としたル・シュワールに作曲を学び始めたところだった。本格的な勉強開始から1年あまりでこのような音楽を編み出すとは―6年後の《幻想交響曲》とともに、ベルリオーズの天才性をあらためて浮き彫りにするデータである。

曲は、古典派のミサ曲を規範としながらも、ベルリオーズならではの、としか言い様のない劇的な響きに満ち溢れている。いくつかの旋律は、《レクイエム》（1837）、歌劇《ベンヴェヌート・チェルリーニ》（1838）、序曲《ローマの謝肉祭》（1844）、《テ・デウム》（1849）、そしてあの《幻想交響曲》（1930、31改訂）に転用された。

初演は1825年7月パリ、サン・ロック教会。ベルリオーズはこの時、タム・タム（打楽器）を担当し、2年後の再演で指揮者としてデビューを飾った。

蘇演：1993年10月ドイツ・ブレーメン。

Profile

|||||

東京ニューシティ管弦楽団 The Tokyo New City Orchestra

東京ニューシティ管弦楽団は、1990年、音楽監督・常任指揮者に内藤彰を擁し設立された。定期演奏会の他、名曲コンサート、協奏曲・オペラ・バレエの伴奏、レコーディングなど幅広く活躍。

特にオペラの分野では評価が高く、二期会、藤原歌劇団の他、レナータ・スコット、アルフレード・クラウス、ヘルマン・プライ、カーティア・リッチャレリ、マリエッラ・デビーア、マリア・キアラ、渡辺葉子等世界で活躍するオペラ歌手との共演も多く、聴衆や批評家のみならず、世界の一流オーケストラと共演している彼らからも、絶賛の言葉を贈られた。

バレエでは、国内のバレエ団の他、英国バーミンガムロイヤルバレエ団、ロシア国立レニングラードバレエ団等海外からのバレエ団の日本公演でも大変高い評価を得ており、今後も内外のバレエ団の公演がめじろ押しである。

また、桂三枝、三枝成章、ケント・ギルバート、マリ・クリスティース等を迎えてのファミリーコンサートも、大変評判が良く、多くの方から親しまれている。

メンバー個人個人の實力はもちろん、それぞれの温かい人間性も共演の指揮者、ソリストから大変高く評価されており、また、一切の無駄を省いた新しいオーケストラの運営方針もユニークな発展を見せており、最近その活動が各方面から注目されている。

平成8年度より、(社)日本クラシック音楽マネジメント協会に、東京第10番目のオーケストラとして加盟し、今後の益々充実した活動が期待されている。

内藤 彰 AKIRA NAITO [指揮]



名古屋大学理学部卒業。在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科（指揮専攻）にて、小澤征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏他に師事し、終了後、(社)山形交響楽団の専属指揮者を3年間務める。

これまでに新日本フィル、東フィル、東響、新星日響、シティ・フィル、九響、名フィル他、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。シンフォニーはもちろん、オペラ・バレエの分野でも、その音楽性とテクニックは聴衆の心からの共感と、共演者の絶大なる信頼を得ている。

海外では、1991年旧ユーゴスラヴィアを代表するベオグラードフィルハーモニーを指揮し好評を博した。また、1992年には、モスクワ音楽院大ホールにて、モスクワ管弦楽団を指揮し、最初のステージから満員の聴衆の5度のカーテンコールを受け、多くの楽員たちからもロシア音楽の魂を日本人から教えられたと絶賛された。1996年5月には、ロシアの国立ヴァロニシュ歌劇場にて、「セビリアの理髪師」を指揮し、絶大なる賞賛を受けた。

現在、東京ニューシティ管弦楽団、及び、プロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督・常任指揮者。1996年1月モスクワ管弦楽団客演指揮者に就任。日本指揮者協会幹事。

横山 勝也 KATUYA YOKOYAMA [尺八]



1934年、静岡県に生まれる。琴古流・吾妻流尺八を祖父範邨、父蘭畝に学ぶ。59年、福田蘭室、海童道祖の両師に師事。63年、日本音楽集団を同志と結成、新しい日本音楽の創造とアンサンブルの拡大を計る。64年、尺八三本会を青木鈴慕、山本邦山氏と結成、流派を超えて尺八三重奏のジャンルを確立する。67年、武満徹作曲「ノヴェンバー・ステップス」を小澤征爾指揮ニューヨークフィルと共演。以来、シカゴ、ボストン、トロント、クリーヴランド、サンフランシスコ、デトロイト、ベルリンフィル、バリ国立、アムステルダムコンセルトヘボウ、都響、東京交、名古屋フィル、等と延100回以上共演を行う。71年、芸術選奨受賞。72年、芸術祭優秀賞受賞。73年、芸術祭大賞受賞。74年、国連、平和記念コンサートにて小澤征爾指揮「天地人」を共演。88年、国際尺八研修館を開館（岡山県小田郡美星町）。89年、サイトウ・キネン・オーケストラ（小澤征爾指揮）とウィーンを始めとするヨーロッパを巡演。90年、武満徹還暦記念コンサート。91年、モビール音楽賞を受賞。95年、小澤征爾還暦記念・阪神大震災チャリティーコンサート。

この他、国内はもとより、海外でのリサイタル、音楽祭、芸術祭、国際交流基金派遣公演等にも多数出演し、世界的に活躍している。又、皇居での御前演奏など、皇室との関係も深い。

現在、東京音楽大学助教授。国際尺八研修館館長。らんぼ社（蘭畝会・竹心会）主宰。

東京合唱協会 The Tokyo Choral Society

1984年4月、音楽監督・常任指揮者に内藤彰を擁し、結成された。オペラや「第九」、「メサイア」等様々なコンサートでソロ活動をしている若手声楽家を中心に結成され、これまでに定期演奏会、各地での特別演奏会、ファミリーコンサート、オペレッタ公演、テレビ、イベント出演の他、音楽鑑賞教室、NHK学校放送、教育用レコードの録音等幅広く活躍しており、オーソドックスな合唱から華やかなオペラ・ミュージカルまでこなせる迫力あるプロ混声合唱団として親しまれてきた。

特に定期演奏会の模様は、「音楽の友」誌でも大きく取り上げられ、NHK-FMやTBS「百万人の音楽」からは特別番組として放送され、話題を呼んだ。

年間ステージ数も120回を越え、東京合唱協会により初演された曲も数十曲を数える。

「ソリスト集団」をキャッチフレーズとし、今回の定期演奏会でも、団員がソロの部分も歌う形式をとる。

中村 鶴城 KAKUJO NAKAMURA [琵琶]



薩摩琵琶・鶴田流。早稲田大学第一文学部美術史学科卒。1957年、宮崎市に生まれる。15オの時、チェリスト、バブロ・カザルスの演奏に「音楽的洗礼」を受け、このことが後の音楽活動の原点となる。78年、大学在学中に筑前

琵琶の初代藤巻旭鴻に入門。その後81年、薩摩琵琶に転向し以後、鶴田錦史に師事。83年、琵琶製作研究を始め、85年より90年頃まで琵琶製作に専念。91年、第28回日本琵琶楽コンクールに第一位入賞、同時に文部大臣奨励賞、日本放送協会会長賞、辻靖剛賞の各賞を受賞。以後、演奏活動を再開。国立劇場主催「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」に出演。92年、東京・御嶽・河鹿園にて、『中村鶴城 琵琶の夕』を開く。93年、ビバルス工房を設立、自主企画による演奏・講演活動を開始。94年、オペラ『法華嶽の和泉式部物語』（金田雄志作曲）でプロローグの音楽と演奏を担当。95年、紀尾井小ホールにて『中村鶴城 琵琶リサイタル』を客演に横山勝也を迎えて開く。国立劇場主催「邦楽鑑賞会／琵琶の会」に出演。宮崎県立芸術劇場にて『琵琶と尺八・日月の韻（ひつきのひびき）』を横山勝也と開く。96年、7月には武満徹作曲『秋～オーケストラと琵琶、尺八のための』のCD録音に、サイトウ・キネン・フェスティバル1996「武満徹メモリアル・コンサート」に『エクリプス』で参加予定。